文学的文章 表現・描写の捉え方

（ある冬の日、「私」は、夕方になっても帰って来ない二人の弟を捜しに行くよう母から頼まれました。空腹だった「私」は頼みを断ろうとしましたが、結局捜しに行くことになりました。）

まず私は近所の◯◯さんや××堂へ行って、弟達を見なかったかとか、どこかへ行くと云っていなかったかとか云ってききただしたが、何の手懸りもえられなかったので、不平でぶーぶー膨れ面をしながら暗い路を◯◯神社の方へあるき出した。私の心の中の不平は憤りとなって、その道々弟達の上に燃えた。
「捕まえたら、撲りつけてやる。」
しかしその報いられない捜索が別に確かなあてのあるものでもなく、そして何というつまらなく腹立たしいことを強いられているのだろうと思いながら、その賑かな通りをあるいていると、小料理屋の格子から冷い夜気の中へ白く湧き出て来る湯気や、醤油のたきつまる匂は堪らなく私の空腹を淋しがらせはじめたのだった。するとまた、こんな考えも浮んで来る。——（もう彼等は家へ帰っているかも知れない）そんな気持が湧いて来ると、一人で空腹を抑えながら不熱心にその辺りをほっつき歩いている私には、その好都合な想像がやがて本当の事実として映るようになり、無責任にいい加減歩きまわったのを機会に私はまた急いで家へ帰りはじめた。
「帰っていたら、いきなり撲ってやる。」
私はまだ不平を※街上に鳴らしながら家まで帰った。

（梶井基次郎「夕凪橋の狸」筑摩書房　による）

※街上…町のなかの路上。みちばた。

表現・描写の特徴

文章は、表現や描写の仕方にさまざまな特徴がある。

● **文体**（文章の様式、スタイル）
・文末…常体「〜だ。〜である。」（硬い印象）
　敬体「〜です。〜ます。」（やさしく語りかけるような印象）
・語句…和語（やわらかい語感）、漢語（硬い語感）、外来語（新鮮で軽快な語感）

● **語り手**…誰の視点で描かれるか。
・一人称…ある人物（「私」など）の視点から語る。
・三人称…第三者の視点から語る。

● **象徴**や**情景描写**
象徴的なものや情景を通して人物の心情が描写されることがある。

● **表現技法**
比喩（直喩・隠喩・擬人法）、体言止め、倒置、対句、反復、省略などの表現技法を用いて印象を強める。

例題

――線部「小料理屋の……はじめたのだった」の表現の特徴について、正しく述べたものを選びなさい。

ア 湯気や匂いの印象や、空腹を感じている「私」の心情を、倒置表現で強調している。

イ 擬人法を用いて、小料理屋の湯気や醤油の匂いに感じた「私」の心情を描いている。

ウ 第三者の視点から、弟達に対する「私」の怒り（いか）を、情景を通して表現している。

〔　　〕

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線部「好都合な想像」とあるが、なぜ好都合なのか。適当なものを選びなさい。

ア 空腹で家に帰りたい「私」にとっては、弟たちが家に帰っているほうが都合がいいから。

イ 弟たちを見つけられない「私」にとっては、弟たちの居場所がわかったほうが都合がいいから。

ウ 不平や憤りで気が立っている「私」にとっては、弟たちに今は出会わないほうが都合がいいから。

〔　　〕

(2) 本文の表現の特徴として正しいものを選びなさい。

ア 「私」の心情は直接は描かれず、行動を通して間接的に表現されている。

イ 「私」の心情が、比喩的な表現や「私」の様子をまじえながら印象的に描かれている。

ウ 「私」の心情の変化が、敬体の短い文を多用することで語りかけるように述べられている。

〔　　〕